



令和4年7月15日

一般社団法人日本雑草学会
会長 小林 浩幸 様

公益財団法人 報農会
理事長 田付 貞洋



第37回報農会シンポジウム開催のご案内
(広報誌への掲載依頼について)

拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当会の事業につきましては、常々多大のご協力を賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、第37回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン—2022』は、別添の通り9月28日(水)にオンラインによるライブ配信にて開催することに致しました。

つきましては、広く関係者にお知らせしたく、出来ましたら貴機関誌・新聞・雑誌等にご紹介いただければ幸いに存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

なお、シンポジウム終了後、別添のお知らせの通り報農会主催の第37回功績者表彰式をオンラインによるライブ配信(シンポジウムと同じURL)にて開催致します。

『植物保護ハイビジョン — 2022』のご案内

— 深まる困難な状況下で持続的農業を支えるイノベティブな植物保護 —

趣 旨：報農会シンポジウムでは、植物防疫における当会独自の立場を生かしテーマ設定を行ってきました。この数年は困難の度合いが深まり続ける自然及び社会・経済の状況から、「今後の植物保護の根幹には IPM をおかざるをえない」という考えを基本においてきました。

今般、世界はコロナ禍が終息をみない中、ありえない戦禍の発生という未曾有の事態が加わり、人類の諸活動がますます制約を受けています。しかし、かような時であればなおさらのこと、人の生命維持に不可欠な農業生産は死守されなければならず、それをサポートする植物防疫の重要性がますます高まっています。

IPM はすでに実効性を獲得しつつあるものの、まだ道半ばにあります。人類にとって持続可能な農業の重要性がこれまでになく高まってきたことは、昨年5月に農林水産省から公表された「みどりの食料システム戦略」の諸目標にもはっきり現れています。生産力の向上と持続性の両立を実現する鍵として、植物保護においても IPM を中心に革新的な技術開発が求められることは言うまでもありません。今回のシンポジウムでは IPM の実現をいっそう喫緊の課題と捉え、様々な角度から講演いただくことを企画しました。

コロナ禍が依然として先行きの見えない状況にあるため、本年のシンポジウムも昨年同様オンラインで開催する準備を進めているところです。ご不便をおかけしますが、ご理解のうえ多くの皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

主 催：公益財団法人 報 農 会

協 賛：一般社団法人 日本応用動物昆虫学会、一般社団法人 日本植物病理学会、日本農薬学会、一般社団法人 日本雑草学会

日 時：令和4年9月28日(水) 10:00~16:00 (オンラインによるライブ配信)

〈プログラム〉

開 会：10:00~10:10 挨拶 報農会 理事長 田 付 貞 洋

講 演：10:10~11:00 バイオスティミュラント：EU と米国、日本でのステータス
日本バイオスティミュラント協議会 和 田 哲 夫

11:00~11:50 サツマイモ基腐病の発生と防除
農研機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域 小 林 有 紀

11:50~13:00 休 憩

13:00~13:50 環境配慮型水田における農薬の施用と管理 滋賀県立大学 環境科学部 須 戸 幹

13:50~14:40 農業における水利用を通じて水田に侵入する水草たち
農研機構 農村工学研究部門 施設工学研究領域 嶺 田 拓 也

14:40~15:30 震災復興を目指す「一社・雄勝花物語」と北限のオリーブ栽培
(一社)雄勝花物語共同代表 徳 水 博 志

15:30~16:00 総合討論

参加費：3,000 円 (講演要旨集を含む。ただし、講演要旨集のみ購入の場合 2,000 円)

申込み：報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧の上、申込用紙に必要事項を記入して、メール又は FAX でお申し込みください。

なお、シンポジウム終了後同じ URL で、報農会主催の第 37 回功績者表彰式をオンラインで行います。お時間の許す方は是非ご覧ください (16:15~16:45 功績者表彰式)。

連絡先：公益財団法人 報農会 事務局

TEL/FAX : 042-452-7773 E-mail : khono511@car.ocn.ne.jp URL : <https://honokai.org>

功績者表彰式のお知らせ

従来行っていた植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式及び祝賀会について、第35回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策等により止むを得ず中止となり、昨年(第36回)は表彰式のみオンラインによるライブ配信で行いました。

本年度第37回について、出席者の安全確保を第一に考え祝賀会は行いませんが、表彰式は昨年と同様の形式で以下のとおり開催いたします。お時間の許す方は是非ご覧になり、祝福を賜りたくご案内申し上げます。

開催日時 令和4年9月28日(水) 16:15~16:45

開催形式 オンラインによるライブ配信(シンポジウムと同じURL)

第37回功労賞受賞者(3名:五十音順)

川久保 幸雄氏(かわくぼ ゆきお)

職歴 福井県農業試験場, 同県園芸試験場, 同県植物防疫協会

- 業績
- 農作物・果樹・野菜病害虫発生予察事業の実施に永年携わり、調査及び取りまとめ、情報の発行・連絡・伝達に尽力された。
 - ウメの黒星病、灰色かび病、菌核病の発生生態を調査し、病斑や潜伏期間などを明らかにして、現地での防除対策の確立に貢献された。
 - 昭和53年に大発生した茶米の発生状況を調査し、病原糸状菌等原因を究明するとともに、測色色差計の応用など機器による効率的評価に寄与された。

倉田 宗良氏(くらた むねなが)

職歴 高知県農業技術研究所, 同県庁農業技術課, 同県農林技術センター

- 業績
- 露地ショウガの根茎に発生した黒あざ症の発生生態を調査し、原因菌の特定及び防除法の開発に貢献された。
 - 輸送中のピーマン果実が腐敗する病害の原因を究明するとともに、発病を抑制する収穫方法の確立に尽力された。後にピーマンへた腐病と命名した。
 - 灰色かび病菌の分生胞子の形成誘導及び形成阻害に及ぼす光質の影響に取り組み、施設野菜の病害防除に寄与された。

御厨 初子氏(みくりや はつこ)

職歴 佐賀県農業試験場, 同県農業試験研究センター

- 業績
- 農家の農薬の使用実態と農産物への残留量を調査・解析して、防除法の改善や農薬安全使用基準の励行・指導の徹底に尽力された。
 - 普通作(水稲, 大豆)において発生予察に基づく効率的防除体系の確立を行い、農薬の使用回数(回)の低減や防除指導に寄与された。
 - 水稲作において散布農薬の環境への飛散・流出、減衰状況等を把握し、クリークへの流出を少なくする水管理を徹底し、環境負荷軽減に貢献された。